



芸術家三兄妹のコラボレーション

千住家の軌跡

千住真理子
デビュー 50周年記念企画

Mariko Senju

Akira Senju

Hiroshi Senju

2025年

5月10日(土) 16時開演

東京オペラシティ コンサートホール

主催: ジャパン・アーツ

5月18日(日) 14時開演

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

主催: ABCテレビ、兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

5月20日(火) 18時45分開演

愛知県芸術劇場 コンサートホール

主催: クラシック名古屋



協賛: 軽井沢ブルワリー

協力: ユニバーサル ミュージック

【第一部】

「音楽家、美術を語る
美術家、音楽を語る」

千住真理子、千住 明、千住 博

司会：近藤サト

―― 休 憩 ――

【第二部】

千住 明

Akira Senju

「彩霧」

ヴァイオリンとストリングオーケストラの為の, 1994

I. プロローグ II. ヒストリー 1 III. ストーリー 1 IV. ヒストリー 2 V. ストーリー 2 VI. エピローグ

“Saimu” for Violin & String Orchestra, 1994

I. Prologue II. History 1 III. Story 1 IV. History 2 V. Story 2 VI. Epilogue

「四季」

ヴァイオリンとストリングオーケストラの為の, 2004

I. 春 II. 夏 III. 秋 IV. 冬

“Four Seasons” for Violin & String Orchestra, 2004

I. Spring II. Summer III. Autumn IV. Winter

「地・水・火・風・空 V」

ソロヴァイオリンとアンサンブルの為の, (2011～)2025

“A・Ba・La・Ka・Kya V”

for Solo Violin & Ensemble, (2011～)2025

指揮・作曲

千住 明

演 奏

千住真理子 (ヴァイオリン・ソロ)

N響のメンバーによるアンサンブル

(コンサートマスター：永峰高志)

絵画(映像)

千住 博

企画制作：ジャパン・アーツ

映像編集：トーキョースタイル 込山璃久 ムーチョ村松 舞台監督：エムラッシュ 高橋義広

衣裳提供：HIROKO KOSHINO(千住真理子)

■ 千住真理子(ヴァイオリン) Mariko Senju, *Violin*

2歳半よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール小学生の部全国1位。NHK交響楽団と共演し12歳でデビュー。日本音楽コンクールに最年少15歳で優勝、レウカディア賞受賞。パガニーニ国際コンクールに最年少で入賞。慶應義塾大学卒業後、指揮者故ジュゼッペ・シノーポリに認められ、87年ロンドン、88年ローマデビュー。国内外での活躍はもちろん、文化大使派遣演奏家としてブラジル、チリ、ウルグアイ等で演奏会を行う。また、チャリティーコンサート等、社会活動にも関心を寄せている。

1993年文化庁「芸術作品賞」、1994年度村松賞、1995年モービル音楽賞奨励賞各賞受賞。1999年2月、ニューヨーク・カーネギーホールのウェイル・リサイタルホールにて、ソロ・リサイタルを開き、大成功を収める。2002年秋、ストラディヴァリウス「デュランティ」との運命的な出会いを果たし、話題となる。

最近では2020年イザイ無伴奏ソナタ全曲「心の叫び」<完全版>を再リリース、2021年「蛍の光～ピースフル・メロディ」、2022年「ポエジー」、2023年千住明のプロデュースによるアルバム「ARIAS」をリリース。また山田洋次監督作品「こんにちは、母さん」のサウンドトラックに参加。2024年は9月にデビュー当時の音源も収録したアルバム「ベスト&レア」を発売、2025年はデビュー50周年を迎え各地で演奏会を開催。デビューアルバムと同じ「メンデルスゾーン&チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲」をリリース。

コンサート活動以外にも、講演会やラジオのパーソナリティを務めるなど、多岐に亘り活躍。著書は「聞いて、ヴァイオリンの詩」(時事通信社、文藝春秋社文春文庫)「ヴァイオリニストは音になる」(時事通信社)「ヴァイオリニスト20の哲学」(ヤマハミュージックメディア)母との共著「母と娘の協奏曲」(時事通信社)「千住家、母娘の往復書簡」(文藝春秋社文春文庫)など多数。

オフィシャル・ホームページ <https://marikosenju.com/>

■ 千住 明(作曲家) Akira Senju, *Composer*

1960年東京生まれ。東京藝術大学作曲科卒業。同大学院首席修了。修了作品「EDEN」(1989)は史上8人目の東京藝術大学買上、同大学美術館に永久保存。代表作にピアノ協奏曲「宿命」(ドラマ「砂の器」)、「四季」、「日本交響詩」、詩篇交響曲「源氏物語」、オペラ「隅田川」「万葉集」「滝の白糸」等。

ドラマ「ほんまもん」「風林火山」「VIVANT」、映画「愛を乞うひと」「追憶」「こんにちは、母さん」、アニメ「機動戦士Vガンダム」「鋼の錬金術師 FA」、NHK「日本 映像の20世紀」「ルーブル美術館」NHKスペシャル「世紀を越えて」「平成史」「新・ドキュメント太平洋戦争」、TV「アイアンシェフ」、CM「アサヒ スーパードライ」、中国ミュージカル「白夜行」、ゲーム「TRIANGLE STRATEGY」等、音楽担当作品は数多い。日本アカデミー賞優秀音楽賞を'97年第20回「わが心の銀河鉄道～宮沢賢治物語」'99年第22回「愛を乞うひと」'04年第27回「黄泉がえり」'24年第47回「こんにちは、母さん」で受賞、ドラマアカデミー賞劇中音楽賞を'01年第27回「Strawberry On The Shortcake」'04年「砂の器」で受賞、'05年第59回日本放送映画芸術大賞最優秀音楽賞「砂の器」、'11年第65回日本放送映画芸術大賞最優秀音楽賞'99年の愛 JAPANESE AMERICAN」「大仏開眼」、「'19年ASIAGRAPH 創(つむぎ)賞等受賞歴多数。

2019年には、天皇陛下御即位三十年記念式典にて天皇皇后両陛下による著作歌曲「歌声の響」の編曲とピアノを担当。三浦大知、千住真理子と共に記念演奏を披露。2025年大阪万博「PASONA NATUREVERS」サウンド・プロデューサー。宝塚歌劇団星組「エスぺラント!」メイン・テーマ曲担当。

東京藝術大学を中心としたクリエイター・グループ「SENJU LAB」主宰。東京藝術大学客員教授、大阪音楽大学客員教授。

オフィシャル・ホームページ <https://akirasenju.com/>

■ 千住 博(日本画家) Hiroshi Senju, *Artist*

1958年東京生まれ。東京藝術大学絵画科日本画専攻卒業、同大学院修士課程修了(修了制作東京藝術大学買上)。同大学院後期博士課程単位取得満期退学(研究制作東京大学買上)。2003年「大徳寺聚光院の襖絵」展(東京国立博物館)、2006年 第6回光州ビエンナーレ(韓国)、2009年 家プロジェクト「石橋」(ベネッセアートサイト直島、香川)、2011年 軽井沢千住博美術館開館、第5回成都ビエンナーレ(中国)、2016年 薬師寺国宝東院堂(奈良)にて個展、2021年「瀧図」(高野山金剛峯寺襖絵)が第77回恩賜賞および日本芸術院賞受賞、出雲大社に奉納、シカゴ美術館収蔵、2023年 ヴィクトリア&アルバート博物館(英国)収蔵、三越創業350周年千住博展、2025年 奈良国立博物館収蔵、吾彦山大聖観音寺に襖絵奉納など、活動は国際的で多岐に渡る。

これまで作品はメトロポリタン美術館、ロサンゼルス・カウンティ美術館(米国)、国立故宫博物院(台湾)など、国内外の主要美術館に収蔵、常設展示されてきた。ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展名誉賞(イタリア)、MOA美術館 岡田茂吉賞絵画部門大賞、イサム・ノグチ賞、日米特別功労賞(ニューヨーク商工会議所)、外務大臣表彰、恩賜賞、日本芸術院賞、日米協会金子堅太郎賞特別賞など、受賞多数。2007年から2013年まで京都造形芸術大学学長を務め、現在、日本芸術院会員、京都芸術大学教授、学校法人立命館顧問。

オフィシャル・ホームページ <https://www.hiroshisenju.com/>

■ 近藤サト(アナウンサー) Sato Kondo, *Announcer*

1968年岐阜県生まれ / 日本大学芸術学部放送学科卒業。

1991年4月、フジテレビ入社。報道番組や情報番組などのナレーションを担当。

1998年9月、フジテレビ退社。フリーランスに転身後は、落ち着いた声質をいかしてNTV『真相報道 バンキシャ!』などのナレーションを中心に活躍。また母校である日本大学芸術学部の特任教授も務める。公式YouTubeチャンネル「サト読ム。」では、着物企画や名作朗読などを発信。著書に『グレイヘアと生きる』(SBクリエイティブ)がある。

■ N響のメンバーによるアンサンブル

Ensemble by the Members of the NHK Symphony Orchestra, Tokyo



1985年、横浜市緑区に在住していた千住真理子とNHK交響楽団の永峰高志、菅沼準二、故徳永兼一郎で結成された「緑弦楽四重奏団」を母体として、首席奏者、次席奏者を中心に構成されている弦楽アンサンブル。美しい音色と、卓越した合奏能力の高さ、豊かな音楽性に定評があり、レパートリーはバロック作品、古典作品から現代作品に至るまで幅広く、聴衆を魅了しつづけている。